

Title	執筆者紹介
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1978
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.48, No.4 (1978. 3) ,p.42(378)- 42(378)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19780300-0042

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

ア湾における一大貿易センターであった。そして Mukaddasi (十世紀)によれば Basrah と貿易上競っていたが、九七六年あるいは九七七年に起った地震によって一部が破壊され、また、Buyid 朝の没落と時を同じくして衰亡したと云う。G. Le Strange, *The Land of the Eastern Caliphate, Mesopotamia, Persia, and Central Asia from the Moslem conquest to the time of Timur* (London and Liverpool, 1905, Third Impression, 1966.), pp. 258-259, Arnold T. Wilson, *The Persian Gulf, an historical sketch from the earliest times to the beginning of the twentieth century* (London, 1928, third impression, 1959), pp. 94-95.

参照。シーラーフについては、家島氏、前掲、「インド洋通商とイエメン」に詳しい。

(30) 池永、寶篋考、前篇、三七—三八頁。

(31) 『諸蕃志』の寶瓏竜國、『嶺外代答』の寶瓏隴國。『旧唐書』(卷一九七)、真臘の条に奔陀浪洲とある。現在ヴェトナム南部の Phanrang 地方と思える(前掲、Chau Ju-Kua, p. 51.)。P. Pelliot, "Deux Itinéraires de Chine en Inde, à la fin du VIII^e siècle," *Bulletin de l'Ecole Française d'Extrême Orient*, IV (1904), pp. 216-217. 参照のこと。

(32) 国史彙編第一期書、第十二冊、世界書局、中華民國五十三年(一九六四)。

(33) 法頭『仏国記』は、前掲、大正新修『大藏經』によった。

法頭のいう「商人大舶」はすでに桑原博士のいわれるようにインド船かマレー諸島船と思え、一艘の乗員は約二百人という大型船であった(桑原隲蔵『蒲寿庚の事蹟』、桑原全集、巻五、昭和四十三年、一〇四—一〇五頁)。

くまへ

執筆 者 紹 介

- | | |
|----------|------------------|
| 高瀬 弘 一 郎 | 慶応義塾大学文学部教授・文学博士 |
| 池 永 佳 昭 | 慶応義塾大学院修士課程修了 |
| 柳 田 利 夫 | 慶応義塾大学文学部助手 |
| 鈴木 正 崇 | 慶応義塾大学院博士課程 |
| 松 本 信 廣 | 慶応義塾大学名誉教授 |
| 伊 藤 清 司 | 慶応義塾大学文学部教授 |
| 和 田 博 徳 | 慶応義塾大学文学部教授 |

(昭和五十三年四月現在)